



船津好遊春

海舟の言々を聞きしは
ひみじくも口をたしめ
きの秋のあつたはし
つれづれに風をけり
海舟に於ては

和賢



和賢
の
て

母家別

春のあけふは
つれづれに
家もあはれ
つれづれに

和賢



松竹梅迎春

弘賢

海原のきつねをこぼしけり
ひまわりをこぼしけり
きのねのたのしみは
つねにわがこころに
こぼれぬ

こぼれぬ
つねにわがこころに

甘茶別

弘賢

春のあけふさき
つねにわがこころに
こぼれぬ

梅の香

弘賢

あけふさき
つねにわがこころに
こぼれぬ

弘賢

Handwritten text in cursive script, likely a signature or name, possibly reading 'Gerrit van der ...'.

二
家
名
意

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title.

名
易
在

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title.

名
易
在

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title.

名
易
在

節のまじりては神々も
おぼえられおぼえられ
よのちのち

まのちのちのちのち
うらなくおぼえられ
わけのちのち

持ちては、おぼえられ
おぼえられおぼえられ
人よ若く

まのちのちのちのち
おぼえられおぼえられ
おぼえられ

おぼえられおぼえられ
おぼえられおぼえられ
おぼえられ

和賢

おぼえられおぼえられ
おぼえられおぼえられ
おぼえられ

和賢

おぼえられおぼえられ
おぼえられおぼえられ
おぼえられ

九月廿三日
九月廿三日
九月廿三日

弘賢

九月廿三日
九月廿三日
九月廿三日

弘賢

九月廿三日
九月廿三日
九月廿三日

弘賢

九月廿三日
九月廿三日
九月廿三日

弘賢

九月廿三日

九月廿三日
九月廿三日
九月廿三日

弘賢

松原を去る也

可らら

つらばしむら花子と云く

めくこは、みづるをま

松原を去る也

あゝくわめの上目めり

あゝくわめの上目めり

あゝくわめの上目めり

あゝくわめの上目めり

岩波を去る也
あゝくわめの上目めり
あゝくわめの上目めり
あゝくわめの上目めり
あゝくわめの上目めり
あゝくわめの上目めり
あゝくわめの上目めり
あゝくわめの上目めり
あゝくわめの上目めり
あゝくわめの上目めり

弘賢

あゝくわめの上目めり
あゝくわめの上目めり
あゝくわめの上目めり
あゝくわめの上目めり

あゝくわめの上目めり
あゝくわめの上目めり
あゝくわめの上目めり
あゝくわめの上目めり

弘賢

糸白の道は石の如く
縁行のあり

九川のいづれに
そとをれし

如野

お終一
わ
ま
わ

屋代弘賢自筆詠草
六卷之四

特別
A4
8088
5